

2021年 7月 4日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「五つのパンと二匹の魚」 マタイによる福音書 14章13-21節 高橋彰

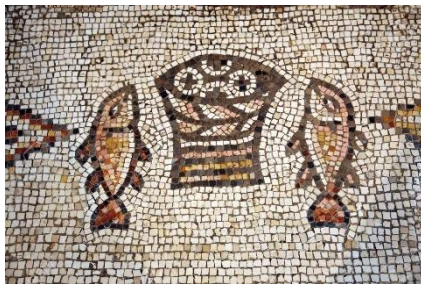
◆五千人に食べ物を与える

14 13 イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。14 イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て深く憐れみ、その中の病人をいやされた。15 夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買って行くでしょう。」16 イエスは言われた。「行かせることはない。あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい。」17 弟子たちは言った。「ここにはパン五つと魚二匹しかありません。」18 イエスは、「それをここに持って来なさい」と言い、19 群衆には草の上に座するようにお命じになった。そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。弟子たちはそのパンを群衆に与えた。20 すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二の籠いっぱいになった。21 食べた人は、女と子供を別にして、男が五千人ほどであった。

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

イエス・キリストがパンと魚を分けられ、大勢の人びとが共に食したという奇跡的な出来事は、4つの福音書すべてに記されているという数少ないエピソードの一つです。それだけこの出来事は、イエスという方を紹介し、伝えるために欠かせない、イエスという方がどんな方なのか、何をなされたのか、わたしたちはイエスを通して何を受けているのか、を伝える重要な話として繰り返し繰り返し、教会で語り続けられてきたのです。

ガリラヤ湖畔のタブハという地にイエスがパンと魚を多くの人びとに分けられた出来事を記念した教会があります。紀元4世紀に遡る古い教会で、聖壇の床にパンと魚のモザイク画があり、良く知ら



れています。この奇跡の出来事は、イエスを信じる者たちにとって、ありえない話やイエスの奇想天外さ、超人さを表わすということよりも、イエスを通して現わされた神の深い憐れみと人間たちに対する惜しみない愛を思い起こさせるものです。そして人が生きるためのために神が具体的に支えられ、しかも人の常識の枠組みを超えて与えようとしてくださっていることに気づかされて行くのです。

マタイ、マルコ、ルカ福音書は領主ヘロデの記事の後にこの出来事を記します。マタイ、マルコはヘロデの誕生日の宴を詳細に描写しました。選ばれた者たちだけが贅沢を享受し、律法による告発さえ軽んじるように権力が示され、忤度がなされ、正義の告発をした預言者、バプテスマのヨハネの命をいとも簡単に奪う狂宴でした。しかし実は主催者である主人さえ、怖れの感情にとらわれていたため、だれも暴走を止めることができない悲惨な現実でした。

イエスはバプテスマのヨハネが殺されたことをヨハネの弟子たちから知らされると、舟に乗ってひとりて人里離れた所へと退かれました。欲望や享楽、暴虐な権力行使により真実の言葉が封じられ、人の命が軽んじられる社会からは一線を引いて避けるかのようになります。また、正義の言葉を語り、世の人びとに神への悔い改めを伝えたヨハネの死を深く悲しみ、悼むためであったのでしょうか。

しかし群衆はそれを聞きつけて方々の町から湖畔を歩いて後を追いました。この人々もまた、日常生活という場から出てイエスを求めて出かけます。単なる好奇心やイエスへの求めでしょうか。男の人だけで五千人、女の人や子どもたちもいたことが記されます。多くの人びとがイエスを慕い求めます。この人びとが真に求めていたのは、まさにイエスが示された「深い憐れみ」だったではないでしょうか。イエスの憐れみを求めて退く人里離れた所…それが今日の「教会」に受け継がれているように思います。そこは何もない野原のよう。しかしイエスは大勢の群衆を見て深く憐れまれ、病人たちをいやされました。

出来事は夕暮れに起こりました。弟子たちは群衆を解散させてほしいと願います。各自が自助で食べ物を調達するようにと考えたからです。イエスはそうではなく「あなたがたが彼らに…与えなさい」と言われます。弟子たちの手元にはパン五つと魚二匹「しかありません」。弟子たちにはそれらは目の前の現実には無価値なものにしか見えません。わたしたちもそうではないか？自分が持っているものを無価値にしか見えず、イエスに差し出しそびれていないか。しかしイエスは「それをここに持ってきなさい」と求めます。

イエスは群衆を草の上に座させます。そしてパンと魚を取り、神を賛美して祈り、裂き、弟子たちに渡されます。弟子たちは自分たちの差し出した日常的でわずかなものがイエスの祝福によって多くの人びとに分かち合われ、すべての人びとが満たされてゆくのを自分たちの手ごたえを得ながら体験しました。イエスが与えたものは祝宴の豪華な料理などでなく、量や価値で争う分配でもありません。日常的で具体的な日用の糧でした。この中にこそ神の深い憐れみが示され与えられていると。イエスは惜しみなく限らない神の愛を日常的なものを通してわたしたちを救う主なのです。わたしたちが人として生きようのです。慰めと平和に満ちています。パン屑を集めます。人には価値がないように思えるものを、イエスは見逃さず大切に集める方です。教会はこの主イエスを通して示された神の深い憐れみ、約束をパン裂きとして継承しました(使徒 2:42, 20:7, 27:35, I コリント 10:16他)。